

令和 6年 2月

森山真亜子 学位論文審査要旨

主 査 岡 田 太
副主査 難 波 範 行
同 谷 口 文 紀

主論文

Role of tenascin C in lesion formation in early peritoneal endometriosis

(子宮内膜症腹膜病変の初期形成におけるテネイシンCの役割)

(著者：森山真亜子、中村和臣、長田広樹、和田郁美、柳樂慶、東幸弘、佐藤絵理、
原田省、谷口文紀)

令和6年 F&S Science doi.org/10.1016/j.xfss.2023.12.004

参考論文

1. Efficacy of norethisterone in patients with ovarian endometrioma

(卵巣子宮内膜症性嚢胞を有する患者に対するノルエチステロンの効果)

(著者：谷口文紀、江夏亜希子、池淵愛、山根恵美子、森山真亜子、村上二郎、
原田崇、原田省)

平成29年 Yonago Acta Medica 60巻 182頁～185頁

2. A case report of an Accessory and Cavitated Uterine Mass treated with total laparoscopic hysterectomy

(全腹腔鏡下子宮全摘術を施行した Accessory and Cavitated Uterine Mass の一例)

(著者：東幸弘、谷口文紀、Hermawan Wibisono、池淵愛、森山真亜子、原田省)

令和3年 Yonago Acta Medica 64巻 207頁～209頁

審査結果の要旨

本研究では、腹腔内への子宮組織同種移植により作製した子宮内膜症モデルマウスを用い、腹膜組織における接着因子について検討した。子宮内膜症病変周囲腹膜では、テネイシンC遺伝子が発現増強していることを明らかにした。野生型マウスとテネイシンCノックアウトマウスを応用したモデルマウスの解析では、レシピエントマウスでのテネイシンC発現抑制により病変数ならびに重量の減少と、病変組織における増殖能とT細胞集簇の抑制を認めた。さらに、ドナーおよびレシピエント双方のテネイシンC発現抑制が、腹腔内マクロファージの分布を変化させることを示した。また、ヒト子宮内膜間質細胞と腹膜中皮細胞の共培養系を用いて、テネイシンC遺伝子の発現抑制により子宮内膜間質細胞の浸潤能が低下することを確認した。これらの成績より、テネイシンCは子宮内膜症発生に関わる重要な因子であることが示唆された。